

有識者に聞く

(5)

西条市では産学官分野の様々な有識者の方々にお会いし、多方面からのご意見をいただき、市政に役立てています。
(聞き手・西条市長 伊藤宏太郎)



株式会社日立製作所 取締役会長 庄山悦彦氏

1936年生まれ。59年(昭和34年)、東京工業大学理工学部卒。日立製作所入社。91年取締役AV機器事業部事業部長。93年常務取締役等を経て、99年取締役社長に就任。06年執行役会長を経て、07年より取締役会長。03年から07年まで、日本経団連副会長、日本電機工業会会長。政府の総合科学技術会議議員など、公職多数。

連結売上高10兆2400億円と、日本で最大規模を誇る総合電機メーカー日立製作所。今回は、99年から7年間社長を務められ、現在は取締役会長として経営の第一線で活躍される庄山悦彦氏にお会いし、西条の産業振興策についてご意見を伺いました。

■モノづくりを軸に産業振興

市長 今日はまず、お礼から申し上げねばなりません。去る10月20日と21日、日本女子ソフトボールリーグ第9節の4試合が西条ひうち球場で行われ、日立グループのルネサス高崎と日立ソフトウエアにご出場いただきました。おかげさまで人気も上々、球場は大盛況でした。本当にありがとうございます。

会長 始球式のピッチャーを務められたそうですね。ど真ん中

のストライク、素晴らしい投球だったと伺っています(笑)。

市長 ルネサス高崎の上野投手になったつもりで、ウインドミルで初めてボールを投げました。まあ、一発芸みたいなものです(笑)。

会長 実は、私は西条市と少なからぬ縁があるんです。確か昭和44年と記憶していますが、エンジニアとして西条市にある火力発電所のプロジェクトに関わり、設計を担当したことがあるんです。プロジェクトが順調

に進んだせいもあり、直接伺う機会が無かったのが残念ですが。
市長 もうそれから40年近くがたちますが、西条市は大きく変貌を遂げました。最新の統計では、工業出荷額が7830億円と昨年度の6700億円を大きく上回り、四国の単独自治体としてはトップ。税収入も大きく伸び、市民税で13・3%と全国平均(6・4%)を上回り、法人税も28・4%と高い伸びを記録しました。

会長 資源に乏しい日本は、ハードとソフトの両面からモノづくりの技術を磨き、新しい価値を作り出していくか道はありません。製造業を中心に産業振興を図られる市長のお考えは、決して間違っていないと思います。

市長 地場の企業も着実に育ってきました。最近では半導体関連で、売上100億円の企業も出てきました。そう遠くない将来には株式の店頭公開もできるでしょう。

会長 今あちこちで地域格差の問題が取り上げられています。確かに格差はありますが、だからといって「ダメだ、ダメだ」という気持ちも始まらない。地元の方たちがその気になって元氣と知恵を出さなければ問題解決にはつながりません。市長のようにバイタリテイにあふれた方をリーダーにもって、地元の方も頼もしく感じているのではないですか。

市長 私も、結果を残せたことに手応えを感じますが、それが正確に伝わっているか。市民がそれを当たり前のように受け止めていては、次につながりません。

会長 それは会社経営も同じです。従業員に熱弁をふるって、危機感を訴え、将来の方針を打ち出しても、本当に一人ひとりの心に届いているのだろうか、ふと不安になることがあります。

市長 日立グループとひとくちに言っても、大きな組織ですから。今、従業員数はどれくらいですか。

会長 全世界に920社余りグループ会社があつて、トータルすると38万9千人が働いています。

市長 西条市の人口が12万足らずですから驚きです。

会長 日立製作所本体だけをみても4万人います。すみずみに自分の気持ちを行き届かせるのは至難です。でもメールが使える便利な世の中になっても、結局は対話しかないだろうと思

います。一人ひとりと話しあつて、心の内に秘めた情熱に火をつけてあげる。インターネットの時代だからこそ、直接対話が重要だと思っています。

■チームワークと和の精神

市長 トップとして、大切にしてこられたことは何でしょうか？

会長 やはりチームワークです。私も、サービスも含めた広い意味でモノづくりを仕事にしています。モノづくりでは、個人の優れた能力も重要ですが、それ以上にチームワークが問われます。みんなが気持ちをひとつにしなないと、良いものはできません。

市長 日本を代表する企業グループのトップのお言葉だけに、ひととき重みを感じます。

会長 私どもは、「和」という言葉を企業理念のひとつに掲げています。仕事で議論を戦わせるのはいいところにかまわない。但し、それは結論が出るまでの

